



ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第311号



教会の広報のために紹介の文章を頼まれましたので、簡単に紹介を致します。

私はマヘル・ウィリアムといます。

私はアメリカのシカゴ市出身です。

1962年オプレート会の神学生として、日本にきました。現在75歳です。今まで主に四国の教会で働きました。高知県の中村教会に17年、徳島教会に2回赴任し17年。神学校を出て最初の1年間、福岡教区の光丘教会にいました。2003年から6年間、古賀教会の主任司祭をいたしました。北九州で働くのは初めてです。これは大変興味深い経験です。

2012年8月から、福岡教区の宮原司教様に2つの小教区で手助けするように依頼されました。私は1カ月間、司祭が休暇を取っていた間の黒崎教会で過ごしました。そして、戸畑教会の主任司祭中村彰神父様が担当する若松教会に6カ月いました。今年4月から水巻教会に任命されました。どうぞよろしくお願い致します。

竹森神父様より年寄りですし、外国人ですからいろいろご迷惑をかけるかもしれませんが、許して下さい。

今は復活節ですから、新しいスタートをするために最高だと思います。皆さんと一

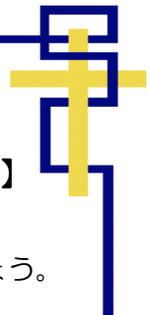
緒に神様のみ国の発展のために働くことができるのは幸いです。この「信仰年」の間、キリストの救いがあることを、まだ聴いたことのない人々に伝えましょう。

「信仰年」は主イエスへの新たな回心と、信仰の再発見に役立つことを望みます。それは、教会に属するすべての者が、復活した主の信頼における喜びに満ちた証人となり、多くの人を「信仰の門」を探すよう導くことができるようになるためです。

教区のスローガンは
【救いの秘蹟を知り、
追体験し、生き、伝える】

です。

みんなで一緒に頑張りましょう。



震災時の外国人信徒たち	2面
子どもたちのページ	3面
委員会等報告	4面
ミサ典礼とわたしたちの信仰	5面
社会問題に向き合う	6面
聖書への案内	7面
今月の聖人	7面
おしらせ	8面
短歌	8面

震災時の外国人信徒たち

広報 岩本

3月10日、長崎大司教管区の九州地区外国人セミナーが大名町教会で開かれました。今年のテーマは「東日本大震災後、岩手県大船渡教会で生まれた、フィリピン人共同体と、東北地方の外国人たちの復興への活動の報告」でした。そのために、岩手県より司祭と信徒が福岡まで来て、活動の報告がありました。

震災の後、東日本に住んでいる外国籍の住民は家族と一緒に避難をしましたが、そのうちに、教会に集まってくるようになりました。そして、不安定な状態での助け合いが始まりました。その結果、固いきずなとコミュニティーが生まれたそうです。

東北地方の教会は、九州と違って教会間の距離が違います。信徒数も少ない地域が多いのは、私たちの想像以上です。昨年7月に訪れた、福島県第二の都市の教会の大きな聖堂で、主日のミサの出席者が40人くらいだったのには本当に驚きました。そのような地域で被災した外国人が助け合ったという報告は感動的でした。

今回のセミナーは準備が十分ではなかったのも、外国人の参加が少なかったのは残念でしたが、北九州地区からの参加が多くて盛況でした。

大変な事態に遭遇したとき、イエス様の時代の人たちも同じだったように思います。イエス様が十字架につけられて死んだ後、イエス様の復活を見たのに、彼らは周りのユダヤ人たちからの迫害を恐れて、一か所に集まって生活をしました。(使徒2章43節～47節)

一方、ステファノの事件(使徒7章54節～60節)をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は各地へ逃げました。多くの弟子たちが逃げたシリアのアンティオキアで主イエスについて福音を告げ知らせました。(使徒11章19節～20節)そして、このアンティオキアで弟子たちは初めてキリスト者と呼ばれるようになります。(使徒11章26節) キリスト教徒の誕生でした。

時代は違いますが、大震災に遭遇した外国人が、苦難の体験の中からコミュニティーを作り助け合い活動を始めた話を聞いたとき、使徒言行録に出てくる初代教会の話を思い出すにはいられませんでした。

岩手県の大槌ベースには新田原教会出身の古木神父が派遣されて支援活動を続けています。古木神父の報告を聞くと現地の状態はまだまだ大変です。まだ回復していない被災地への支援は、これからも長く続けていきたいものです。





子どもたちへのページ

教皇様について、新聞に書いてあったこと

今年の四旬節の最高のニュースは、
教皇様が引退されて新しい教皇様
が選ばれたことです。このことについては
テレビや新聞でかなり詳しく報道されま
したが、新しい教皇様について考え
てみましょう。

① 教皇と法王はどう違うのか。

教会では教皇と言っていますが、
新聞など教会以外では法王と言われて
いますが同じです。以前にカトリック
新聞に同じであることが書いてありまし
た。別に気にすることはありません。

② 新しい教皇様はどの国の人ですか。

教皇様は南アメリカの一番南にあ
るアルゼンチン国の出身です。教皇様
の両親がイタリアからアルゼンチンに
移民(外国に移ること)しましたので、アル
ゼンチンで生まれました。

アルゼンチンと言う国は、ヨーロッパの
イタリアやスペインから移ってきた人た
ちがとても多い国です。

この国で一番有名なのは牧場で、牛
の世話をする男の人を、アメリカではカ

ウボーイと言いますが、アルゼンチンでは
ガウチョと言います。

アルゼンチンの人たちは肉をたくさ
ん食べます。ある時テレビ番組では、レ
ストランで女性でも一人500g以上食べ
るのが当たり前と言っていました。肉も
安いのです。教皇様もたくさん食べるの
でしょうか。聞いてみたいです。

③ どんな人ですか。

毎日新聞に書いてあったのですが、
教皇様は、大司教になっても司教館に
住まないで、町の中の小さなアパートに
住んでいたそうです。そしてミサのために
教会に行く時は、バスや地下鉄に乗って
行っていたそうです。

④ どんな考え方をする人ですか。

日本にキリスト教を伝えた「イエズス
会」という修道会に所属している方
ですから、貧しい人、困っている人のため
に働くことを一番に考えておられます。
99匹の羊を守るより、いなくなった
一匹を探しに行こうとも言われました。

委員会等報告

2013年4月分

4月度小教区委員会

4月7日

1. 議題

- 納骨堂管理規約について
 - ・規約の一部変更し、納骨堂基金を納骨堂献金とする。
 - ・4月21日(日)納骨堂利用者集会をする。
- 平日ミサについて
 - ・火曜日から金曜日までは午前7時より。
 - 土曜日のミサについては、今後検討する。

2. これからの予定

- 4月14日(日) 司教様訪問。
- マヘル神父任命式。
- ミサ後茶話会。
- 4月21日(日) 納骨堂利用者集会
- 4月28日(日) 典礼委員会
- 5月26日(日) 信徒総会



よろしくおねがいします



大阪教区の神学生、洗礼者ヨハネ豊田貴範と申します。今年而立(じりつ)を迎える年齢となりました。霊名の由来は殉教の翌日に生まれたためです。大阪生まれ大阪育ち、出身教会は箕面教会、受洗は殆ど幼児洗礼です。中学高校と教会を離れていましたが、大学の時に主日のミサに通うようになりました。戻るきっかけは母と母の友人の信仰の影響でした。

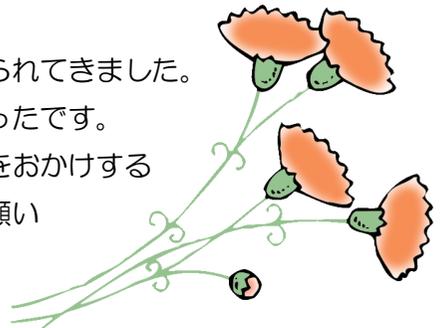
大学を卒業したあと3年間仕事に就いていました。小物家電を販売店へ卸す営業マンをしていました。就職した年に、当時主任の和田幹男神父様より神学院の受験を誘われました。私には全く自覚はありませんでしたが、和田神父様は私の召命の雰囲気を感じていたようです。

仕事内容も評価されていたため、悩み考える日々が続きました。自分の人生を識別していく中で、神からは離れられないと確信するに至り神学校への受験を決めました。神様の不思議な計らいとしか思えないなかで、入学までトントン拍子に進みました。

昨年は東京の荻窪教会で実習する恵みをいただきました。私自身は至らぬ者ですが、今年は水巻教会の共同体と過ごす日々を楽しみにしています。

キリストを信じる過程で、たくさんの人の祈りに支えられてきました。キリストを信じていなければこの教会に来ることもなかったです。

新しく皆様と出会えたことを感謝しています。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞ今年一年よろしくお願ひいたします。



北九州地区信徒協議会 典礼部会研修会

「ミサ典礼とわたしたちの信仰（信仰年にあたって）」

日本カトリック神学院院長 白濱 満

上記北九州信徒協研修会が、信徒全般を対象にして2月10日、小倉教会で開催されました。講師は、かつてサン・スルピス神学院に居られ、日本では典礼学の中心人物とも言える白濱神父で、内容的は次のとおりでした。

***I-1,およびI-2) 信仰年は、信仰を典礼の中で深く記念するためのよい機会**

***I-3) 感謝の祭儀を深く記念するための理解**

***II 第2バチカン公会議に基づく「典礼活動」、特にミサの位置づけ**

I-3)では、①「ミサは教会活動の源泉」②「信者の生活がますます信頼のおけるものとなるためには」が話されたあと、「ミサを見つめる3つの視点」について、語られました。

※ミサを見つめる3つの視点

1 ミサの中で何を記念するのか（信じる内容の再発見）

2 なぜミサに参加するのか（信じる意味の問い直し）

3 生活の中でどのように生きるのか（生活のあかしへの信頼）

この中で心に残った話としては、ミサでの記念とは十字架の死と復活であり、私達はこれに倣って「蝶の幼虫が、さなぎを経て、羽ばたく蝶になることだ」と比喻されました。「生活の中でどのように生きるのか」の項では、信者一人一人が新しくなるべきことが話され、この「新しく」は、時間的な「最近のもの」（ギリシャ語の”ネオス”）という意味でなく「質的な新しさ」（同”カイオス”）を得ることだと語られました。

***II 第2バチカン公会議に基づく典礼活動**

これについては、次の様な話がなされました。まず、白濱神父の常時感じている「朝のウォーキング」が切りだされました。ウォーキング中ではスマートフォンを見なくなる、静かに自分と向き合える。スマホも繋がるものだが、真のつながりを求めなければならない。ルカ書の「イエスは人里を離れた。イエスを群衆は探した。」で、この「人里を離れて祈ることのできる」深い意味を捉え、これが典礼の原点だとされました。この上で主な教会活動は、預言職（宣教活動）、祭司職（典礼活動）、王職・牧職（司牧活動）の3つである。その中で典礼活動は、他の中心であり、「宣教活動と司牧活動における力は、典礼活動から授けられる」と語られました。

さらに詳しく言うと、典礼とは、(i)信者の集いの中でのことばとするしをもつての儀式、(ii)キリストの祈りと救いの技を継続する教会活動、(iii)キリストが、聖霊を通じて人々に神の恵みを注ぐこと（神から人への奉仕）。(iv)キリストの名において行動する者ととともに、信者の共同体全体が参加するもの、とされました。

講和では、白濱神父の真摯にして、しばしばユーモアを交える講話に心がなごみました。

典礼委員 三谷 尚

社会問題に向き合うカトリック教会の基本姿勢

Q8 聖職者が社会問題に関わることはどこまで許されるのですか？

A 政治問題に聖職者がかかわる際の基準や範囲については、義務づけられること、許されること、そして禁止されることがいずれもあります。

義務づけられることは、まず教会の社会教説も実際の社会状況もよく知り、関心をもつことです。『教会の社会教説綱要』は、司祭や神学生は「社会領域に関する教会の教えや司牧的関心についての徹底した知識を得るとともに、その時代の社会問題に対する強い関心をもたなければなりません」と述べています。それはいうまでもなく、社会に対するかかわり方の、適切な奨励と指導ができるようになるためです。

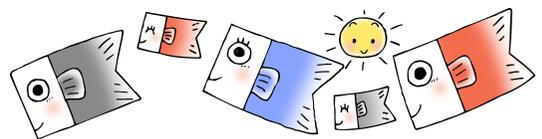
『教会の社会教説綱要』は「適切な養成計画を通して、司祭は社会教説を知らせ、社会教説の積極的主体となる権利と義務があることをその共同体の信徒一人ひとりが意識するよう促進しなければなりません」とも述べています。

義務づけられずとも許されることは、上記の義務づけられることと禁止されること以外の一切のかかわり方であり、実に広い範囲のものです。多くのことからは、社会状況と共同体の状況に鑑(かんが)みたくうえで、本人の裁量にゆだねられます。修道会司祭の場合、会意によって社会へのかかわりが義務づけられていることもありま

す。多くの修道会は社会問題へのかかわりを奨励する方針をとっており、「貧しい人のための優先的選択」などのような表現で修道会の会意に組み込まれている例は多々あります。

実際に、聖職者が社会に多くかかわってきています。近代以降だけを見ても、歴史に残っている例は少なくありません。フランス革命の際には、革命政府が司教の任命権における教皇庁の権限を認めなくなるまでは、多くの司祭が革命に対してかなり積極的に協力しました。また、メキシコのスペインからの独立運動における司祭の役割は大きなものでした。さらに、アイルランドにおける英国支配に反対する運動、オーストラリアでの先住民族の権利擁護、アメリカの黒人差別撤廃運動、ベトナム反戦運動、核兵器廃絶運動等々における司祭のかかわりは顕著なものです。

聖職者に禁止されることは根本的に二つあります。「政治体制の構築や社会生活の組織づくりに直接に介入すること」と「国家権力の行使への参与を伴う公職を受諾すること」の二つです。



聖書への案内 No.35 ペテロの第一の手紙

解説書には、「ヤコブの手紙がユダヤ人キリスト者を対象として書かれているのに対して、この手紙は異邦人キリスト者を対象にしているようである」「1章3節から4章11節までは、初代教会における洗礼式の説教や勧告を改作したものと見ている」と書いてあります。

この箇所は希望を抱かせる具体的なやさしい内容が続きます。そして、「**あなたがたは、審理を受け入れて、魂を清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、清い心で深く愛し合いなさい。あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることはない生きた言葉によって新たに生まれたのです。こう言われているからです。『人は皆、草のようで、その華やかさはすべて、草の花のようだ。草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は永遠に変わることがない。』**これこそ、あなたがたに福音として告げ知らされた言葉なのです。」(1章22節～25節)

初代教会で語られた説教のつもりで読んでみると、信仰の原点に立ち戻ったような感動を受けます。当時の人たちにとって旧約聖書の預言書は身近であったと思われ、24節の言葉はまさにこの話にぴったりのイザヤ書の箇所です。



今月の聖人 13日 ファチマの聖母

1917年5月13日

ファチマは、ポルトガルの山の中にある村です。1917年5月13日、ここに聖母がご出現なさったのは、第一次世界大戦さなかのことでした。聖母のご出現を受けたのは、3人の牧童でした。

そのとき、一番年上がルチアという10歳の女の子、次がルチアのいとこで9歳のフランススコという男の子、そしてその妹で7歳のヤシタでした。彼らは、祈ることは知っていましたが、まだだれも読み書きを知りませんでした。

この日、いつものように羊たちと家を出て丘で遊んでいると、突然、非常に激しい閃光が光り、小さな柵の木の上に、光そのものように輝く貴婦人が立っていました。

貴婦人は、子どもたちに6ヵ月間続けて、毎月13日に、今日と同じ時間に、ここに来るようにと願われました。そして、6回目のご出現で、貴婦人は「ロザリオの元后」であることを名乗られ、ここに聖堂を建てて欲しいこと、毎日ロザリオを唱えることを続けるように願われ、もうすぐ戦争が終わり、兵士たちが家にまもなく帰ることを告げられました。

聖母は、ファチマでも、ルルドと同じように、病人を癒されました。そしてこのご出現で、3人の子どもたちにいくつかの啓示を与えられました。それは、現代の人々のおごりに対する警告です。



5月のおしらせ

★特別献金★

3月29日(金) 聖地エルサレム献金
 17,600円
 愛の献金 62,000円
 東日本大震災義援金 192,297円
 ご協力ありがとうございました。

★特別寄付★

金田様、鳥田様より、教会に寄付がありました。ありがとうございました。

★ふれあい会よりお願い★

日曜日のミサ後に、お茶やコーヒーを用意して出している、ふれあい会です。お家に余っている、コーヒーやクレープ、ココア、紅茶、砂糖、お茶の葉などがありましたら、ご寄付をお願いします。

★信徒総会★

日時：5月26日(日) ミサ後
 場所：水巻教会 聖堂
 信徒総会は、今年度の教会の方針等を話し合うものです。今年度は、神父さまもかわりました。是非、信徒の皆様の参加をお願いします。



【帰天】安らかに

◇4月3日
 鳥田 トミさん(吉田地区)

【転出】お元気で！

◇重国 正信さん(折尾地区)
 久留米教会へ

折尾地区

西山寿美枝さんの短歌

菜種油の鞘のふくらみ硬くなり
 刈られ絞られ運ばれて行く

花の庭草取る人を労えば

名も知らぬ花を束ねて下さる

樹木繁り鳥の隠れ家となりたれば

残光の中に一刻生きいむ

いずこより迷いし虫が腹みせて

起こせば細き手足でもがきぬ

五月川紅き椿の流れ来る

名を残さずに落ちし椿か

この石にも地球の時間流れてる

下には蟻の黒く動きて